

【第 35 回個別発表抄録】

集中講義「精神保健」(子ども発達支援領域)

—アクティブ・ラーニング導入の試み—

糸田 尚史 (名寄市立大学)

1. 問題

新カリキュラムに変わるまでという条件でA大学生活科学部保育学科の「精神保健」を集中講義により担当することになった。そこで、B看護専門学校で精神看護学Ⅱ(精神保健領域)の非常勤講師もしていた時期に作成した「90分×15回」分の看護学生向けのスライドを用いた講義と同じ内容での授業を計画した。しかし、保育学生向けに作り替えてほしいと言われ、子ども発達支援領域にかかわる「精神保健」の講義内容へと組み替えた。

さらに、2017(平成29)年度に名寄市立大学にお招きした当時は京都大学にいらした溝上慎一氏によるアクティブ・ラーニングに関する講演(模擬授業)にも大きく触発され、「精神保健」の集中講義にはアクティブ・ラーニングも導入してみることにした。

2. 方法

「精神保健」は保育学科の2年生にとっては初めての集中講義であり、10時40分から17時50分までの4コマ続きの授業を4日間連続で受ける学生たちの心身の負担を考慮すると、区分は講義科目ではあるものの、演習科目的な学修を加えてもよいとの示唆をいただいた。座学の講義のほうは講義室においてパワーポイントによるスライドを用いて行い、アクティブな演習のほうは保育実習室と大学の周りの屋外で行うことになった。

アクティブ・ラーニングに関しては、溝上の講演を参考に、①講義、②読解、③視聴覚教材、④デモンストレーション、⑤グループディスカッション、⑥活動や体験をする、⑦他者に教えるなどを試行した。そして、アクティブ・ラーニング導入の効果については毎時のレスポンスカードと最終日における感想の記述から評価する方法をとるものとした。

3. 結果

全講義終了後、受講学生達からは「講義と実習があつてとてもわかりやすかった」「わくわくするようなものがたくさんあった」「座学もエクササイズもたくさんある充実した4日間だった!」「驚きの連続だった。正直、今までに受講したことのないような内容だった」「座学のスライドでみたことをやってみることで実感することができた」「演習と座学を半分ずつ行う授業だったのでよりためになった」「座学以外にも学び方がたくさんあり、あつという間の4日間だった」などの肯定的なコメントが得られた。

4. 考察

①講義(スライド)、②読解(貞方宏著「行為の喪失の時代」)、③視聴覚教材(映画『レインマン』)、④デモンストレーション(手遊び)、⑤グループディスカッション(絵本)、⑥活動や体験をする(親子遊び、寄り道散歩)、⑦他者に教える(寄り道散歩の「おたより」の作成)などのアクティブ・ラーニング導入を試みた。その結果、学生達からの評価も良好といえる集中講義「精神保健(子ども発達支援領域)」にすることができた。